

# ハレハレ。

## ●登場人物

桃子 この家の長女。高校3年生。センター試験を控えている。  
ひかり この家の次女。高校1年生。毎年恒例のもちつきは面倒くさい。

今永成美 桃子の友達。高校3年生。推薦で大学が決まっている。イベント事は好きでない。  
白木奏子 桃子の部活の後輩。高校2年生。イベント大好きのお祭り女。  
優衣 ひかりの友達。高校1年生。この家のご近所さん。桃子とひかりと仲が良い。

力彰 桃子の幼馴染。高校3年生。八百屋の息子。もちつきの常連。  
石田 力彰の友達で、登場人物たちとは別の学校に通っている。高校3年生。体格が良い。  
聡真 力彰の弟、ひかりと優衣のクラスメイト。高校1年生。細身。

## ●舞台

坂の多い、海がある町。

山の斜面には、入り組んだ形で家が乱立している。

2016年12月25日、海風が厳しい冬の昼。

町の商店街は、クリスマスや正月の準備でそこそこ賑わっている。

そんな町に昔から住む、ある家族の家の二階、6畳の部屋。

急な階段を登らないといけない部屋は、桃子とひかりの二人の部屋である。

こたつ、ストーブなどの暖房器具、2段ベッドなどの生活用品が部屋にひしめいている。

部屋にはカレンダーがあり、今年最後の日曜に当たる12月25日に赤丸が記されている。

一階は家族が集う居間や台所、玄関などがある。

家の外にはもちつきの道具が準備されている。

部屋の中では、桃子がこたつに入り勉強をしている。しかし、集中が持たない様子で、みかんを食べたり、ベッドで横になったり、時折、窓を開けて外を眺めたりしている。

遠くから時間を告げる、学校のチャイムの音が聞こえる。桃子はこたつに入り、横になっている。

こたつの上には参考書やノートが無造作に広がっている。

と、そこにバタバタ音を立て、ひかりが上がって来る。

ひかりは割烹着を着ている。

桃子は慌てて起き上がり、白々しく勉強を始める。

ひかり 姉ちゃん。

桃子 ん？

ひかり ……寝とったやろ？

桃子 え？

ひかり 今。

桃子 寝るわけないやん、受験生よ。

ひかり (顔を触り) 寝跡。

桃子 え？ (顔を触り) あ。

ひかり ついてないけど。

桃子 ……。

ひかりは洋服ダンスを漁り出す。

ひかり 寝るぐらいなら手伝いよ。

桃子 寝てないちゃ。

ひかり 絶対参加なんやないん。

桃子 ん？

ひかり もちつき。

桃子 ああ。

ひかり もちつき！

桃子 聞こえとるちゃ。

ひかり 風邪ひいとってもやらせるくせに。

桃子 まあ。

ひかり 何で姉ちゃんだけ。

桃子 受験なんやけ。

ひかり 関係ないやん。

桃子 あんたも分かるちゃ、そのうち。  
ひかり あたしだってやったし、受験。

桃子 高校受験やる？

ひかり そうよ。

桃子 大学受験。

ひかり だけ何なん。

桃子 格が違うんよ、格が。

ひかり 意味分かん。

桃子 分からんやつは、もちでもついでとき。

ひかり つきたくないけ言いよんやろ。

桃子 つきたくないんかい。

ひかり つきたいわけないやん。

桃子 まあ、頑張れ、頑張れ。

ひかり 何なん。

ひかりは相変わらず洋服ダンスを漁り、桃子は勉強している風である。

下の階からは、微かにラジオの音が聞こえる。

しばらくすると、

ひかり もう。何でこんな日に。(カレンダーを見る)

桃子 ん？(カレンダーを見て) たまたまよ。

ひかり 聖なる日に渋すぎるやろ。

桃子 聖なるね。

ひかり もちつきて。

桃子 じゃあ、赤い帽子でも被ってみたら？

ひかり は？

桃子 気分が出るんやない？

ひかり ・・ばあちゃんがひっくり返るわ。

桃子 ひっくり返るよ。

ひかり 何なん、年末の日曜っち。

桃子 決まりなんやけ。

ひかり お父さんの仕事の都合やろ？

桃子 お父さんというか・・、商店街というか。

ひかり 仕事しろ、商店街。

桃子 そういふもんよ。

ひかり こっちの都合も考えんで。

桃子 どうせ、何の予定ないんやろ？

ひかり は？

桃子 クリスマス。  
ひかり 勝手に決めんで。  
桃子 じゃあ、あつたん？  
ひかり ……作ればある。  
優衣(声) ひかりちゃん。  
ひかり あ。

と、階段を登って来る音が聞こえる。

優衣(声) あつた？  
ひかり あるある。  
桃子 (下に向かって) 優衣ちゃん？

優衣が部屋に入ってくる。

優衣 あ、こんにちは。  
桃子 来とつたん？  
優衣 あ、お邪魔します。  
桃子 毎年、ご苦労様やね。  
優衣 いや、でも、何か、恒例行事やけ。  
桃子 まあまあ。  
優衣 やらんと、あの、今年が終わらんというか。  
桃子 偉いわー。あんたも見習い。  
ひかり サボりに言われたくないし。  
桃子 だけ、サボリやないちゃ。  
ひかり あつた。

ひかりは洋服ダンスから、桃子の割烹着を取り出す。

桃子 え？何しよん？  
ひかり ん？  
桃子 私の。  
ひかり どうせ、使わんやろ？  
桃子 まあ、そうやけど。  
ひかり 忘れたっけ言っけさ。  
桃子 ああ。  
ひかり エプロン。  
優衣 あ、取り帰ってもいいんやけど。

桃子 全然いいんよ、そんなんで良ければ。  
優衣 ごめんね。

桃子 いや、全然。

ひかり くさ。

桃子 え？

ひかり これ。え。(鼻に近づけ) くさ。

桃子 臭くないやろ。

ひかり いや、臭いちゃ。

桃子 臭くないちゃ。(優衣に) 洗濯しとるんよ。

優衣 あ、大丈夫。

ひかり 何やろ、これ。(鼻に近づけ) くさ。

桃子 何回も匂わんでよ。

ひかり ちょっと匂ってんちゃ。

桃子 嫌よ。

ひかり 姉ちゃんのやろ。

桃子 臭いの分かつとって、嫌やろ。

ひかり (優衣に) ちょっと匂ってん。

優衣 え？

桃子 やめてちゃ。

ひかり 一回だけ、一回だけ。

桃子 マジで。(こたつに足をぶつけ) った。

優衣に割烹着を匂わせる。

優衣 あ・うん。

桃子 (倒れ込み) 何か死にたい。

優衣 あ、でも、何か、あの、タンスの臭いというか。

ひかり はいはい、タンスね。(匂って) 湿気と柔軟剤と、そこはかたなく匂う樟脳が交じり合  
った匂い。

優衣 樟脳？

桃子 去年から使ってないし。

ひかり ちょっと待ってって。

優衣に割烹着を投げ渡す。

優衣 どしたん？

ひかり ファブリーズ。

ひかりは、バタバタと1階に降りて行く。

桃子 もっと臭くなるんじゃないん。・・あ、とりあえず掛けとく？  
優衣 え？

桃子はダンスからハンガーを取り出す。

桃子 (苦笑して) 臭いんやろ？それ。  
優衣 いや、別にそんなあれやけど。  
桃子 いいよ、気使わんで。  
優衣 使ってないよ。  
桃子 貸して。  
優衣 ああ。

桃子はハンガーに割烹着を掛ける。

優衣 ねえ。  
桃子 ん？  
優衣 あの、樟脳つち何？  
桃子 樟脳？  
優衣 さつき、ひかりちゃんが。  
桃子 ああ。何やろ。昔の防虫剤というか。  
優衣 防虫剤？  
桃子 うん、ほら、古いダンスとか、押し入れとか、何か匂いがするやん？  
優衣 ああ。  
桃子 あの、ちょっとスツとする、独特なやつ。  
優衣 じいちゃん家の匂い。  
桃子 まあ、じいちゃん家、は、するかも知れんね。  
優衣 あれ、樟脳っち言うんやん。  
桃子 全然覚えんないけど。  
優衣 知らんかった。  
桃子 ん？じゃあ、ダンスが樟脳臭いんやか？  
優衣 分からんけど。  
桃子 え、何か嫌やん。樟脳とか使ってないんに。

桃子はダンスの中に顔を突っ込む。

下の階からは、ひかりの「お母さん、ファブリーズどこ？」の声が横切る。

桃子 全然せんけど。  
優衣 ああ。  
桃子 え？する？  
優衣 ・・あの桃ちゃん。  
桃子 ちよつと来て。  
優衣 え？  
桃子 ちよつと匂ってみて。  
優衣 あ、ああ。

優衣もダンスの中に顔を突っ込む。  
一階をバタバタ走る音が聞こえる。

桃子 する？  
優衣 あんまり分かん。  
桃子 あんまり？  
優衣 あんまりというか、せんね。  
桃子 よね？せんよね？  
優衣 うん。  
桃子 ねえ。  
優衣 でも二人の匂いがする。  
桃子 え？  
優衣 え？  
桃子 二人？  
優衣 あの、桃ちゃんとひかりちゃんのこと。  
桃子 タンスから？  
優衣 タンスからというか、  
桃子 こわ。  
優衣 え？  
桃子 え？どんな匂い？  
優衣 どんなっち難しいけど。  
桃子 けど？  
優衣 けどっち言うか、え、何やる。  
桃子 例えば？  
優衣 例えばっち言われても、分からんよ。  
桃子 何でもいいんよ。例えば。

と、ひかりがファブリーズを持って上がって来る。  
ダンスの前で横並びになっている二人。

ひかり え何しよん？

桃子 うちの匂いっち分かる？

ひかり え？

桃子 タンスからうちの匂いがするっち。

ひかり 何それ、こわ。

優衣 タンスからっち言うか、なんとなく。

桃子 でも、するんやろ？

優衣 …まあ。

ひかり え、うちらっち…

桃子 うちらよ。私と、

ひかり 同じ匂いがするん？

優衣 そう、かな。

ひかり 何か、相当嫌なんやけど。

桃子 どういうこと？

ひかり だって汗くさやん。

桃子 汗くさて。

ひかり サブバッグとか、マジでヤバイよ。

桃子 え？

ひかり (指差し) サブバッグ。

桃子 それは、部活のあれやん。

優衣 そういうんやなくて。

ひかり (割烹着を指差し) え、これも？

優衣 え？

ひかり これも、うちの匂いがするん？

優衣 あの…どうやか。

ひかりが割烹着に向かって、何度もファブリーズを振りかける。  
たまに自分にも振りかける。桃子にも振りかける。

桃子 いっぱいかけて。

ひかり 当たり前。

桃子 匂いが分からなくなるぐらい。

優衣 違うよ、全然臭くないんよ。

ひかり いや、臭いよ。

優衣 それは…ちよっとだけあれやけど。

桃子 いっぱいかけて。

優衣 違うんよ、二人の匂いは、あの…好きな、



むせる三人。ファブリーズする手が止まる。

桃子・・・窓。

ひかりん。

ひかりが窓を開ける。冷たい風が入って来る。

ひかり さむ。

桃子 かけすぎやろ。

ひかり いっぱいっつち言ったやん。

桃子 いっぱいがいっぱい過ぎるやろ。

ひかり (窓の外を見て) あ。

桃子 ん？

ひかり 成美先輩。

桃子 あ、来た？

ひかり え？ちよっと、

桃子が窓を覗き込む。

桃子 やっほー。遅かったね。

成美・・・。

桃子 家、すぐに分かった？

成美(外から) 分かるわけないやろ。

桃子 あ、やっぱり？

成美(外から) 路地過ぎるやろ。

桃子 まあまあ、とりあえず上がって。

桃子は窓を閉める。

ひかり 何で成美先輩？

桃子 ん？

ひかり 遊ぶ気？

桃子 勉強ちや、勉強。

桃子が下の階に降りて行く。

(二階○と一階●の会話は同時に行われます。)

ひかり ホントに勉強する気あるん？  
優衣 でも受験生やけね。

ひかり 受験て。

優衣 え、うん。

ひかり 東京行きたいだけ。

優衣 東京。

ひかり 東京ならどこの大学でもいいんやけ。

優衣 分からんけど。

○ひかり そうなんちゃ。

○優衣 ・・そっか。

○ひかり 受験生の自覚が足らんよ。

○優衣 でも、あれやん？

○ひかり ん？

○優衣 我慢しとるんやないん？もちつき。

○ひかり ああ。

○優衣 桃ちゃん、好きやし。

○ひかり まあ・運動バカやけ。

○優衣 勉強が似合わんもんね。

○ひかり そっちゃ。

●桃子（声） 顔、白。

●成美（声） 寒過ぎる。

●桃子（声） そりや、冬やもん。

●成美（声） 海風がきついんよ、ここ。

●桃子（声） そうかね？

●成美（声） お邪魔します。

二階に上がりながら、

●桃子（声） え、結構迷った。

●成美（声） 迷うやろ、こんな地図で。

●桃子（声） 無駄を省いたんやけど。

成美（声） いや、迷うっち言うか、ほとんど遭難やね。

桃子（声） それは大げさやろ。

成美（声） いや、遭難。

桃子と成美が部屋に入って来る。

ひかり こんにちは。

成美 ああ、こんにちは。

優衣 こんにちは。

桃子 ひかりは分かるよね？

成美 うん。

桃子 優衣ちゃん。は、うちの学校の1年で、

成美 見たことある。

桃子 うん、で、ご近所さんなんよ。

成美 ご近所さん。

優衣 こんにちは。

成美 こんにちは。

桃子 何か、適当に座って。

成美 うん。

桃子 ストープの前とか。

ひかり 準備しよっか。

優衣 うん。

ひかり したくないけど。

成美 準備？

ひかり もちつきなんですよ。今日。

成美 (外の方を見て) ああ。

優衣 毎年恒例なんです。

成美 ふーん。

優衣 あ、はい。

桃子 リッキーとかは？

ひかり まだ。

桃子 おそ。

ひかり 何か助っ人連れて来るっち。

桃子 助っ人？

ひかり 姉ちゃんの代わり。

ひかりと優衣は下の階に降りて行く。

桃子 代わりて。

成美 リッキーっち、あのリッキー？

桃子 ん？

成美 うちのクラスの、八百屋のリッキー。

桃子 そ、八百屋のリッキー。

成美 語呂がいいよね。八百屋のリッキー。

桃子 そうかね？  
成美 今から来るん？  
桃子 そ。もちつきに。  
成美 付き合っとな？  
桃子 は？  
成美 八百屋のリッキーと。  
桃子 いや、マジ勘弁して。  
成美 ・・まあ、そうやね。  
桃子 リッキーも近所なん。  
成美 ああ。  
桃子 家も見えるんよ。

桃子は窓を開ける。

桃子 あそのこの赤い屋根の、  
成美 ご近所だらけやね。  
桃子 ん？  
成美 さっきの子とリッキーと。  
桃子 別にだらけでもないけど。  
成美 (窓の外を眺めて) 何か、ひしめいとるもん。  
桃子 ん？  
成美 家が。びっしり。  
桃子 (窓の外を眺めて) そうやね。  
成美 こんな斜面に。  
桃子 まあ・・斜面やね。  
成美 何でこんなとこに建てるんかね。  
桃子 そんなん、ひいじいちゃんに聞いてよ。  
成美 ひいじいちゃん？  
桃子 そ、ひいじいちゃん。  
成美 え、おるん？(下を指差し)  
桃子 いや、死んどるよ。  
成美 なんだ。  
桃子 会ったことないし。  
成美 まあ、そうか。  
桃子 (窓の外を眺めて) 私も思うよ。  
成美 ん？  
桃子 何でこんなとこにっち。  
成美 思うよ。

桃子 すんごい大変なんやけ、この坂道。  
成美 分かる分かる。

桃子 いや、想像以上よ。

成美 登って来たけど今。

桃子 毎日やけ。登って、降りて、登って、降りて、

成美 うん。

桃子 18年も。

成美 生まれてすぐは歩けんけど。

桃子 ……。

成美 とか言って。

桃子 とか言ってやないちゃ。

桃子は窓を閉める。

桃子 勉強しよ。

成美 急に。

桃子 何か怖くなって来たけ。

成美 怖い？

桃子 出らんと、家。

成美 ああ。

桃子はこたつに戻る。

桃子 受からんと、大学。

成美 そうやね。

桃子 あー、推薦はいいよね。もう余裕やもん。

成美 まあ余裕。(階段の音に反応し)ん？

と、ひかりが部屋に入ってきて来る。

ひかり あ、ちゃんと勉強しよう。

桃子 当たり前やろ。(成美と目が合い)何？

成美 別に。

ひかり サボっとるっち思ったんに。

桃子 残念。

ひかり 残念やないけど。(割烹着を触り)湿っとる。

桃子 かけすぎなんよファブリーズ。

ひかり もう。

ひかりは割烹着をストーブのそばに持って行く。

桃子 (成美に) みかんとか食べていいけ。  
成美 ありがと。

桃子 (ひかりに) 近づけ過ぎんのよ。  
ひかり 分かつとるちゃ。

桃子 火事とかなったら一発やけね。  
ひかり 一発よ、こんな家。

桃子 家つちゆうか、ここら一帯。  
ひかり そうやね。

桃子 火の海よ。  
ひかり 洒落にならんわ。

ひかりはストーブのそばに割烹着を干し、ベッドの下の段に行く。

桃子 優衣ちゃんは？

ひかり お母さんとしやべりよう。

桃子 助っ人つち誰が来るん？

ひかり さあ知らん。

ひかりは携帯電話を取り出し、充電をし始める。

桃子 聡真？

ひかり あんなん助っ人にならんやろ。

桃子 そうやね。

ひかり つーか毎年おるし、聡真。

桃子 まあ、そうか。

ひかりは携帯電話を触っており、桃子は勉強をしている。

成美 こういう日常。

桃子 ん？

成美 なんやなっち思って。

桃子 何が？

成美 こういう。

桃子 こういう・・・

成美 (ひかりに) 下なんやん。

ひかり え？

成美 寝るの。

ひかり ああ、はい。

桃子 私の上。

成美 二人やし、そうやろうね。

ひかり 何とかと煙は高いところが好きやけね。

成美 ああ。

桃子 言い方が古いわ。

ひかり ばあちゃんが言いよったん。

桃子 上がいいっち泣きよったのは誰ねちゃ。

ひかり いつの話よ。

桃子 そんな昔やないやろ。

ひかり 大昔よ。

成美 ひしめいとるね。

桃子 はい？

成美 この部屋も。

桃子 そうちゃ、こんな狭い部屋に。

成美 ここでも登って降りて。

桃子 え？

成美 寝るたびに。

桃子 ホントやん。

成美 (家の階段の方を見て) 階段も登って降りて。

桃子 あー、盲点。

ひかり 何の話？

成美 ー、何やろ。高いところが好きな人の話？

ひかり どういうことですか。

成美 好きやないし。

と、玄関から声が聞こえる。

奏子(声) こんにちは。

下の階から「はい」の声。

ひかり かなちゃんやない？

桃子 え何で？

ひかり 知らんけど。

成美 またご近所さん？

桃子 違う違う、白木よ、バスケ部の後輩の。  
成美 ああ、あれか。

桃子が階段の下を覗き込む。

桃子 あ、ホントやん。

優衣(声) こんにちは。

奏子(声) あー、優衣やん。

桃子 何で優衣ちゃんが出るかね、この家。

桃子が階段を降りて行く。

奏子(声) 何？もちつき？今日？

優衣(声) あ、うん。

奏子(声) クリスマスに？うける。

桃子(声) ちよう、何しよん。

奏子(声) あ、先輩メリクリ。

桃子(声) メリクリやないちゃ。

奏子(声) え、クリスマスっすよ。

桃子(声) それは知っとる。

●奏子(声) どういうことっすか。

●桃子(声) ごめんね、優衣ちゃん。

●優衣(声) いえ。

●奏子(声) パーティーっすか？

●桃子(声) せんつて。

●奏子(声) クリスマスもちつき。変わっとるっすね。

●桃子(声) クリスマスにもちつきっちおかしいやろ。

●奏子(声) え、でもするんではよ？

●桃子(声) ああ、まあ、そうか。

●奏子(声) 超楽しそう。

●優衣(声) やります？

●奏子(声) やるやる。

●桃子(声) 何で上がりよん。

●奏子(声) いや、部活やりよったんっすよ、で終わって、クリスマスやしみんなでカラオ

ケ行こうっと思ひよったんっすけど、

●桃子(声) 何の話なん。

●奏子(声) 行こうっと思ったら、みんな予定があるっち言って。

●優衣(声) 忙しいんですね。



- 奏子（声） そうなんよ、みなリア充。
- 桃子（声） 私も忙しいんやけど、どこ行きよん。
- 奏子（声） もちつかせてもらおうっすから。
- 桃子（声） え？
- 奏子（声） 挨拶。
- 桃子（声） いいちゃ。

一階の奥の部屋に行く足音が聞こえる。

- 成美 よう来るん？
- ひかり え？
- 成美 （下を指差し）あれ。
- ひかり たまに、ですかね。
- 成美 面倒見がいいわ。桃子。
- ひかり どうですかね。
- 成美 人が寄り付くというか、集まるというか。
- ひかり そう、ですかね。
- 成美 私より確実に。
- ひかり ああ・・ああ。
- 成美 賑やかやね、この家。
- ひかり そうなんですかね。
- 成美 賑やかよ。
- ひかり 今日は特別あれですけど。
- 成美 もちつきやけ？
- ひかり 人が一番集まる日なんで。
- 成美 ああ。
- ひかり それでも減りましたけどね、人。
- 成美 ふーん。
- ひかり ・・はい。
- 成美 そんなんしよう家が残っとうち思わんかった。
- ひかり もちつきでしょ！？
- 成美 ・・うん。
- ひかり 当たり前やと思ってたんで。
- 成美 ん？
- ひかり 年末最後の日曜にやるのが。
- 成美 そういふ決まりなんやん。
- ひかり はい。
- 成美 ああ、だけか。（カレンダーを見て）

ひかり 小学校の頃、友達がそんなせんせんよっち言っけ、珍しいーっ言ったら、みんなにあんたん家の方が珍しいよっち言われて。

成美 そうやね。

ひかり 何かすごい恥ずかしくて。

成美 恥ずかしくはないよ。

ひかり いや、珍しいーとか言って多数側における気やったのが恥ずかしくて。

成美 ああ、そっちね。

ひかり だけ何か、嫌やなっち思って。

成美 何が？

ひかり ・・何ですかね。もちつくのが、というか、もちついとるって言っのが、ですかね。

成美 少数派やけ？

ひかり や、それだけやないですけどね。

成美 少数派でもいいと思うよ。

ひかり いや、いいんですけど。

成美 私、大体少数派やし。

ひかり ・・ああ。

成美 誕生日も別にやらんし。

ひかり 誕生日も？

成美 うん。

ひかり それはすごいですね。

成美 そういう家やけ。それが当たり前。

ひかり 当たり前。

成美 当たり前のごとは、当たり前のようにせんし、当たり前のようにするし。

ひかり ですかね。

成美 この家もちつくのが当たり前。私は嫌やけど。

ひかり え？

成美 人が集まるの面倒くさいし。

と、下から声が聞こえる。

奏子(声) や、最高っすね。

桃子(声) はいはい。

奏子(声) めっちゃいい匂いっすもん。

優衣(声) うん。

●桃子(声) まだ米やけ。

●奏子(声) もち食いてー。

○成美 めんどくさ。

○ひかり でしょうね。

階段を上がる音が聞こえる。

桃子(声) 私はせんのやけね。

奏子(声) え？

桃子(声) もちつき。

奏子(声) 分かってますって。勉強でしょ？

桃子(声) ホント分かっとる？

と、桃子を先頭に、奏子と優衣が部屋に入ってきて来る。

奏子 わ。

成美 わっち何？

奏子 いや、先輩がおるっち思わんかったっけ。

成美 それで、何で「わ」なん。

奏子 驚いただけっすよ。

成美 別にいいけど。

奏子 (こたつの上を見て) お、しようっすね。

○桃子 だけ言いようやん。

○成美 受験生の家に遊び来るかね。

○奏子 いやいや。

○成美 何がいやいやなん。

○奏子 成美先輩もやないっすか。

○成美 私は桃子に呼ばれたん。

○奏子 うちだって、

○成美 呼ばれてないやろ。

○奏子 うちは、(ひかりに) ねえ？

●優衣 あ、おばちゃんと呼びよったよ。

●ひかり あたし？

●優衣 うん。

●ひかり 何やか？

●優衣 割烹着は？

●ひかり んー、何か湿っとって。

●桃子 何かはファブリーズやろ。

ひかり (奏子に振られ) え？うん。

奏子 ひかりと遊ぼうかなっと思っって。ね？

ひかり (とりあえず笑って) はい。

ひかりが下の階に降りて行く。

成美 苦笑いやん。

奏子 嬉しいの顔でしょ。

成美 ・・もういいや。

桃子 (優衣に) 匂いとれた？

優衣 どうやか。

奏子 え、それ優衣の？

優衣 あ、私のやなくて、

桃子 私の。

奏子 え先輩のやつ？

桃子 ほとんど使ってないけど。

奏子 そうなんっすか？

桃子 もちつきの時だけやけ。

優衣 そうやね。

奏子 なら勝負服やないっすか。

桃子 勝負服で。

奏子 いいっすね、何かレトロで。

桃子 やめてよ。

奏子 え、レトロくないっすか？

桃子 レトロは知らんけど。

奏子 柄とか超いいっすよ。

桃子 (嫌そうに) そう？

優衣 うん。

奏子 ね、ひかりのも可愛かったし。

桃子 分からんけど。

奏子 こう、レトロな感じが逆にみたいな。

桃子 逆と思って着てないけど。

優衣 おばあちゃんのこと？

桃子 そ、お下がり。

優衣 へえ。

奏子 じゃあ代々伝わるっちやつっすか？

桃子 全然そんなやないけ。

成美 白木、うるさい。

奏子 え？

成美 うるさい。

奏子 全然静かな方っすよ？

成美 ああ。

奏子 (成美に近づき) 特別な日に着るucci良くないですか？  
成美 全然めげんね。  
奏子 何がですか？

と、階段を上がって来る音がする。

ひかり (声) 優衣。

優衣 ん？何？

ひかり (声) 買い出し、一緒行こ。

お盆にお茶を3つ乗せ、ひかりが部屋に入って来る。

優衣 ああ、うん。

桃子 買い出し？

ひかり (お盆を差し出し) はい、お茶。

桃子 ああ。

成美 ありがとう。

ひかり 何で姉ちゃん分まで。

桃子 何の買い出し？

ひかり 色々。

桃子 (お茶を配りながら) 色々ね。

奏子 (受け取り) ありがとうございませーす。

ひかりは割烹着を脱ぎながら、

ひかり 人手が足らんわ。

桃子 そんなことないやろ。

ひかり つーか、勉強しよらんやろ。

桃子 しようちや、するちや。

ひかり せんなら手伝え。

奏子 じゃあ、うちが行こうか？

ひかり え？

奏子 人手が足らんのやろ？

ひかり えああ、でも、こっちで何かあるかも知れんし。

奏子 何か？

ひかり かなちゃん部活やりようけ力あるし、おってもらった方が。

奏子 たしかに、たしかに。

ひかり うん。

成美 いいね、あんたは。  
奏子 ん？

ひかり 行こうや。

優衣 忘れもない？

ひかり あ、お父さんおるけど大丈夫やろうけど、

桃子 ん？

ひかり リッキーたち来たら、お湯張るよって言っとって。

桃子 ああ。

奏子 リッキー？

ひかりと優衣は階段を降りて行く。

桃子 お湯、湧かしよる？

ひかり（声） 沸かしようちや。

成美 何かしつかりしとるわ。

桃子 え？

成美 ひかりちゃん。

桃子 どうやか。

成美はゆっくりとお茶を飲む。

桃子はとりあえず参考書に向き合う。

外からはひかりと優衣、近所の人がしゃべっている声が聞こえる。

奏子 あ、ファブリーズある、ラッキー、助かった、使っていいっすか？

桃子 ダメっちな言えんやろ。

奏子 あざっす。

奏子は自分の持って来たサブバッグにファブリーズを振りかける。

成美 自分家（ち）でしろ。

奏子 家帰ったら忘れるんっすよ。（嗅いで）くせ。

成美 まあ臭かろ。

奏子 まあって何ですか。

桃子 ・・私のもしとって。

奏子 え？

桃子 サブバッグ。一応。

奏子 ういっす。あ、これか。

奏子は桃子のサブバッグにもファブリーズを振りかける。  
下の階からは相変わらず、ラジオの音が微かに流れている。

奏子 (小声で) 先輩。

桃子 ん？

奏子 (小声で) リッキーって誰ですか？

桃子 普通にしゃべっていいけ。

奏子 ・・いや何か。

桃子 逆に気になるけ。

奏子 すんません。

成美 うちのクラスの、八百屋のリッキー。

奏子 八百屋のリッキー？が、お湯張るんですか？

成美 お湯は知らんけど。

奏子 先輩たちと同じクラス？

成美 そ。

奏子 えー、分からんな。

成美 そのうち来るよ。

奏子 イケメンっすか？

成美 ・・まあ・・好みは人それぞれやけ。

奏子 ・・ああ。

二人はお茶を飲む。

成美 助っ人も来るって。

奏子 男っすか？

成美 知らん。

奏子 いや、助っ人ですもん。あ、でもうちは女か。

成美 あんたは助っ人やないやろ。

奏子 もう助っ人みたいなもんっすよ。

成美 勝手に。

奏子 バスケットで鍛えた瞬発力。

成美 ・・瞬発力？

奏子 (返す動きで) こっつすよ。ドリブルの要領で (返す動きで) はい、こっつ。

成美 え、そっちなん？

奏子 そっち？

成美 (振り下ろす動きで) こっちやなくて？

奏子 そっちは男子にしてみらっつて、

成美 (返す動きで) こっち？

奏子 (口元を抑え、笑いを堪える)  
成美 え、何。  
奏子 知ってます？  
成美 ん？  
奏子 もちつきって・・やらしいんっすよ。  
成美 は？  
奏子 だって、あれですよ。棒で、ぺったんぺったんっすよ。  
成美 言い方やろ。  
奏子 違いますって。  
成美 何が？  
奏子 餅って、あの、子孫繁栄とか、何かそんななんですから。  
成美 知らんけど。  
奏子 そうなんですって。こないだテレビでやりましたもん。(桃子に) ですよね？  
桃子 え？  
奏子 子孫とか、家族とか、そういうんですよね？  
桃子 勉強しよんやけ。  
奏子 一瞬、一瞬。  
桃子 ・・そういうのもあるらしいよ。  
奏子 ほら。  
成美 (桃子に) 聞いたんかい。  
桃子 聞こえるやろ。  
奏子 だけ、(右手で) 棒で (左手で) 器を、  
成美 手はやめり。  
桃子 (被せるように) 棒とか言っけ、おかしくなるんやろ。  
奏子 (右手を上げ) 棒やないですか。  
桃子 杵っち名前があるんやけ。  
奏子 それで、(両手で) ぺったんぺったんっすよ。  
成美 分かったけ、手はやめりちや。  
奏子 クリスマスの昼間っから。  
成美 それこそ言い方やろ。  
桃子 願いなんやけ。  
二人 ・・え？  
桃子 ・・や、だけ、家が繁栄しますようにっち。  
成美 家。  
奏子 (両手で) ぺったん。  
桃子 そうやなくて・・いや、そうなんやけど、そういうんやなくて、  
奏子 なくて？  
桃子 ・・いや、(笑って) よう分からんのやけどね。ばあちゃんとかがそう言っけね。



成美 ああ。

桃子 昔の人やけ、すぐそういう、ね？

奏子 あ、あれでしょ？おせちには意味があるみたいな。

桃子 それそれ。

奏子 昆布を食べてよろこんぶ、

成美 え何それ。

奏子 知らんのっすか？

成美 親父ギヤグ？

奏子 まあ、みたいなもんっす。

桃子は立ち上がり、

成美 どこ行くん？

桃子 トイレ。

成美 ・・ああ。

奏子 あ、何かいい感じやったら教えて下さい。

桃子 ん？

奏子 (手でべったんしながら) 行くんで。

桃子 もうちよっとやないやか。

桃子が階段を降りて行く。

奏子 楽しみっすね。

成美 ん？

奏子 いや、もちつきですよ。

成美 私はせんよ。

奏子 マジっすか？

成美 マジっす。

奏子 じゃあ、何しに来たんっすか。

成美 何て・・勉強の手伝い？

奏子 ああ。

成美 全然手伝えてないけど。

奏子 しゃーないやないですか？こんな日なんやし。

成美 こんな日は知らんけど。

奏子 いや、こんな日でしょ。クリスマスともちつきっすよ。

成美 知らんけど。

奏子 ダブルハッピーやないですか。

成美 ハッピー。

奏子 (自分を指差し) うち、お祭り好きなんで。  
成美 分かる分かる。

奏子 先輩あんま好きそうやないっすね。  
成美 面倒くさい。

奏子 何が面倒くさいんっすか？

成美 ・・何やろ。

奏子 ワクワクするやないですか。

成美 人が増えるし。

奏子 そうっすね、みんなで集まって。

成美 騒がしいし。

奏子 盛り上がりますよね。

成美 暑苦しいし。

奏子 活気がっすね。活気。

成美 それが面倒くさい。

奏子 いいことだらけやないっすか。

成美 面倒くさい。

奏子 あんま臭い臭い言いよったら、

奏子は立ち上がり、

成美 何？

奏子 (ファブリーズを手にし) ファブりますよ。

成美 ・・は？

奏子 臭いものにはファブリーズ。修造が言っていました。

成美 臭いもの。

奏子 そうっすよ。

成美 じゃあ、ちよっと貸して。

奏子 え？

成美 いいけ、ちよっと。

奏子はファブリーズを成美に渡す。

成美は受け取ると、奏子に振りかける。

奏子 わ、何っすか。

成美 邪魔くさい。

奏子 ・・おお。

成美 おおっち言わんで。

と、窓の外から桃子の声が聞こえる。

桃子（外から） 白木―。  
奏子 ん？

奏子が窓を開ける。

奏子 どちらでした？

桃子（外から） これ、あんたのチャリ？

奏子 え違いますよ。

桃子（外から） よね。（家の中の人に）違っつて。

奏子 何っすか？

桃子（声） 動かしていかっち言っけ。

奏子 ああ。

桃子（声） 違っなら大丈夫。

奏子 ういっす。（ポツリと）さむ。

奏子が窓を閉める。

奏子 あれ？先輩はどうやって来たんっすか？

成美 え？

奏子 歩きっすか？

成美 あ。

奏子 ん？

成美 忘れとった。

奏子 何をですか？

成美 自転車。置いて来た。

桃子の階段を上がって来る音が聞こえる。

奏子 え？どこにですか。

成美 下のコンビニ。

奏子 マジっすか。

桃子 どしたん？

奏子 先輩のチャリ、コンビニっち。

桃子 何で。

成美 何でっち、遭難したけやん。

奏子 遭難？

成美 自転車押しながら、この辺ぐるぐる回って、  
奏子 ぐるぐる。

桃子 ああ。

成美 でも見つからんし、重いし、だけ面倒くさいけ、とりあえず置いて、  
奏子 また臭いっち言いよう。

成美がファブリーズを奏子に振りかける。

奏子 何で、うちなんですか。

桃子が携帯電話を取り出す。

桃子 下のコンビニやろ？

成美 そう。

桃子 ん。

奏子 どしたんっすか？

桃子 ひかり達が行つとるけ、多分。

奏子 おお、ナイスタイミング。

桃子はひかりに電話をかける。布団のところでバイブ音。

成美 そこで鳴りようよ。

桃子 何で置いてっとな。

成美 さっき充電しよったけ。

桃子 全然しつかりしてないやん。

成美 いや、分からんけど。

桃子 優衣ちゃんはあれやか。

桃子は優衣に電話をかける。

奏子 もう取りに行ったらいいんやないっすか？

桃子 下におるんやったらさ。

奏子 そうですけど、そんな遠くないし。

成美 遠くないん？

奏子 全然遠くないっすよ。

成美 ああ。

桃子 遭難せんかったらね。

成美はポケットから地図を取り出し、

成美 こんな地図よ。渡されたの。

奏子 (地図を見て) ああ、これは分からんっすね。

桃子 だけ無駄を省いた(電話に出たように) あ。もしもし・うん、買い出し終わった？  
成美 分からんやろ？

奏子 この辺に脇道があって、

○桃子 まだコンビニ？・・・あ、やったらさ、そこに自転車ない？

●成美 どの脇道？

●奏子 いっぱいありますからね、脇道。入り組んどって。

桃子 そう自転車。(成美に) 学校のシール貼っとるよね？

成美 貼っとる。

桃子 ほら、通学用のシール貼っとる、ある？うん・それ持って帰って欲しいんやけど、

奏子 良かったっすね。

桃子 鍵？(成美に)・・・かぎ。

成美はポケットから鍵を取り出す。

桃子 ・・ごめん、何でもないわ。

奏子 先輩、ドジっ子っすね。

成美はファブリーズを奏子に振りかける。

奏子 ちよ、

桃子 あ、大丈夫やけ。うん。・取り行く。はい。(切る)

成美 申し訳ない。

桃子 行こっか。

成美 大丈夫、勉強しよき。

桃子 でも、

成美 白木と行くけ。

奏子 え、うちっすか？

成美 助っ人やろ。

奏子 そういう助っ人やないんですけど。

成美 桃子の代役。

桃子 代役。

奏子 ・・ういっす。

桃子は置いている地図に気付き、

桃子 地図は？

成美 遭難させる気？

桃子 そんなに？

成美 あんたはそれで分かるやろうけど。

桃子 ああ。

成美 いつもの道やけ。

奏子 うちが分かりますから。

成美 はじめて、あんたが頼もしい。

奏子 はじめてやないでしょ。

二人が階段を降りて行く。

成美（声） いや、はじめて。

桃子 いってらっしゃい。

奏子（声） ていうか、先輩とこんなしゃべったのははじめてやないですか。

成美（声） やけ、はじめて。

桃子 （地図を見てポツリと）いつもの。

奏子（声） ああ、そうか。

成美（声） そうよ。

奏子（声） ちょっと出てきます。

成美（声） 言わんでいいやろ。

外からは変わらず、「こっち？」「そっち行ったらダメです。」などの二人の会話が聞こえる。声が少しずつ遠くなって行く。下の階からはラジオの音が微かに聞こえる。

部屋に残った桃子は一人で地図を眺めている。

徐々に窓を開けると、外を眺め、地図と外の景色を見比べている。

と、成美と奏子が行ったであろう方向の逆から、男の子たちの声が聞こえる。

力彰（外から） おう、何しよん？

桃子 ん、ああ。遅かったやん。

力彰（外から） 準備がね、あ、これ助っ人。

桃子 こんにちは。

石田（外から） こんにちは。

力彰（外から） 荷物、上でいい？

桃子 え？

力彰（外から） ん？いや、荷物。

桃子 あ、別にいいけど。  
力彰（外から） ん。

桃子は窓を閉め、部屋を見渡す。  
引っかけていたサブバッグを取り、一回匂って、部屋の隅に置く。

力彰（声） こんにちは。  
聡真（声） こんにちは。  
力彰（声） お邪魔します。

桃子はこたつの上のみかんの皮をゴミ箱に捨てたり、少し片づけをしている。  
ベッドに引っかけていた、ひかりの割烹着を、自分の割烹着に並べる。  
階段を上がって来る音が聞こえる。

石田（声） ちよ、リッキー、待てちゃ。  
力彰（声） 階段急やけ。  
石田（声） 見たら分かるけど。  
聡真（声） 落ちんで下さいよ。  
石田（声） 落ちんで。

力彰を先頭に、石田と聡真が部屋に入って来る。  
聡真はかぼちゃを手持っている。

力彰 おう。  
桃子 うん。  
力彰 一人？  
桃子 買い出し行っとして。  
石田 お邪魔します。  
桃子 あ、どうぞ。  
力彰 石田。  
石田 石田です。  
桃子 石田くん。  
力彰 北高の同い年。  
桃子 ああ。  
石田 お邪魔します。  
桃子 あ、もう全然全然。  
力彰 もちつきそうやろ。  
桃子 ああ。

石田 つきます。

聡真 早、上がって、

石田 ああ、すまん。

桃子 あ、何か、適当に荷物。

石田 すいません。

力彰 緊張すんなちや。

石田 おう。

桃子 全然せんでいいけ。

石田 あ、はい。

力彰 おもろ。

石田 うるせえちや。

桃子 聡真、何、それ。

聡真 え、かぼちや。

桃子 かぼちやは分かるけど。

力彰 ああ、親父が持って行けっち。

桃子 おいちゃん来んの？

力彰 後で来るっち。

桃子 それ、飲みに来るだけやん。

力彰 もう、お前らに任すって。

桃子 任すっち言われてもさ。

力彰 俺が言ったんやないちや。

桃子 (聡真に) 上に持って来んでも。

聡真 あ、そっか。

桃子 あ、いい、いい。もらう。

聡真 ああ。

桃子 ありがと。

桃子は聡真からかぼちやを受け取る。

桃子 もちつきにかぼちや。

力彰 俺も大根の方がっち言ったんぞ。

聡真 酔もちもいいね。

桃子 うそぞ。ばあちゃん好きやし、かぼちや。

力彰 ああ。

桃子 食べたら元気出るやろ。

力彰 ・・そっやね。

石田 ランタンでも作る？

桃子 ・・え？



力彰 (ほぼ同時に) ・ ・ は？  
石田 あ、かぼちゃ、ランタン。  
桃子 ああ。  
石田 ジャック、オー、ランタン。  
桃子 ハロウインの。  
石田 そう。  
桃子 でも、今日はクリスマスやし。  
石田 ・ ・ 冗談やったんやけどね。  
桃子 あ、冗談。  
力彰 急にびっくりするわ。  
石田 何とか輪に入りたくて。  
桃子 ごめん、ごめん。私も人見知りやけさ、ほら。  
力彰 せんやろ。  
桃子 するちや。  
力彰 しょうの見たことないわ。  
聡真 (石田に) でもいいですね。  
石田 え？  
聡真 お祭りがいっぱいになって。  
石田 冗談なんやけどね。  
桃子 これ以上いいって。  
聡真 お祭りフェスみたいな。  
力彰 それやと祭り祭りやねえか。  
聡真 あ、面白い。  
力彰 いや、全然。  
桃子 (石田に) とりあえず、座とつたら？  
石田 ああ。  
桃子 (部屋を出ようとして) あ、リッキー。  
力彰 ン？  
桃子 お湯張ととってっち。  
力彰 ちよっと温まったら。  
桃子 どうせ熱くなるんやけ。  
力彰 そりやそう。

桃子がかぼちゃを持って、部屋を出て行く。

石田 おいー。

力彰 ン？

石田 展開が早い。

力彰 え？  
石田 展開が。  
聡真 何の展開ですか？  
石田 いきなり部屋とか。  
力彰 は？  
石田 そんなん緊張するに決まっとるやん。  
力彰 いや、荷物置くのに。  
石田 お前らはそつかも知れんよ。  
聡真 うん。  
石田 お前らは当たり前かも知れんけど、俺は違うやん。  
力彰 違う？  
石田 初めましてやん。  
力彰 桃子に？  
石田 桃子ちゃんにも、この家の人にも。  
聡真 桃子ちゃん。  
石田 桃子ちゃんにも・え、桃子ちゃんとか呼んだらキモい？  
聡真 いや、いいと思います。  
石田 桃子ちゃんも、この部屋も、初めましてやん。  
聡真 うん。  
石田 卒アルで見ただけよ？お前の。中学校の。  
力彰 そうやな。  
石田 かわいいねっち。  
力彰 だけ連れて来たやん。  
石田 そうよ、そこはありがとうよ。  
力彰 ああ。  
石田 ありがとう。  
力彰 あ、うん。  
石田 でも、いきなり本物やん。  
力彰 そりや家やし。  
石田 え逆にどう？  
力彰 ん？  
石田 逆に。俺の仲の良い女の子ん家に、お前らと呼んでよ？  
力彰 おるん？  
石田 おらんよ。例えばやん。  
力彰 ごめん。  
石田 え、おらんよ。  
力彰 ああ。  
石田 何なん。ちよっとおるけっち。

力彰 そんなんやないけど。

石田 (聡真に) 何なん、兄ちゃん。

聡真 すいません。

石田 (聡真に戯れて) お前も仲間やろうが。

聡真 止めてちゃ。

石田 (聡真に戯れながら) 従妹の姉ちゃんの部屋以外、初めてなんぞ。

聡真 もういいって。

力彰 おめでとつ。

石田 (聡真に戯れながら) ありがとー。

下の階から桃子が声を掛ける。

桃子(声) ちよー、暴れんだよ。

力彰 暴れてない、暴れてない。

桃子(声) お湯は？

力彰 行くちゃ。つーか、おいちゃん何しよん。

聡真 のんびりした人やし。

力彰 もう。じいさん、おらんつち言っんに。

力彰が部屋を出て行く。階段を降りる音が聞こえる。  
下で桃子と力彰の声が聞こえる。

力彰(声) おいちゃんは？

桃子(声) やるやる。お父さーん。

石田 あー。

聡真 どうかしました？

石田 いい匂いするー。

聡真 え？

石田 女の子の部屋っち。

聡真 ・・そうですかね。

石田 分かん？

聡真 んー、どうですかね。

石田 ちよっと、深呼吸してん。

聡真 え・・

石田 ほら。

聡真 ・・はい。

二人は深呼吸する。

石田 どう？

聡真 いや、何て言うか、この家の匂いしか。

石田 家？

聡真 家というか、何ですかね。あ。

石田 ん？

聡真はファブリーズを手にして、

聡真 この匂いやないですか？

石田 いや、これは違うやろ。

聡真はファブリーズを空中に振りかけ、二人はその匂いを嗅ぎ、

聡真 ほら。

石田 ……。

聡真 ね？

石田 いや、でもこれだけやない、何か。

聡真 まあ、これだけやないかもですけど。

石田 やろうが。

聡真 でも、この匂いもせんっすか？

石田 ん？

二人は深呼吸する。

石田 するっちやするけど。

聡真 でしょ？

石田 あ・・そういうことか。

聡真 え？

石田 分からんのか？女子の気持ちか。

聡真 ……ちよっと。

石田 俺らが来るっちいう。

聡真 俺ら？

石田 俺らよ。おれら。

聡真 それが何なんですか？

石田 だけ、エチケットというか、ニラッシュッち。

聡真 わざわざ？

石田 それが乙女心やろ。

聡真 石田くんに言われてもあれやけど。

と、下の階で力彰の声が通り過ぎる。

力彰(声) あっち、あっち。

石田 お前は何もせんのか？

聡真 ああ、俺は補欠ですから。

石田 補欠？

聡真 補欠っていうか、まあ。

石田 ん？

聡真 つかせてもらえないんで。

石田 何で？

聡真 (細身の体を指して) 見て分かりますか？

石田 …ああ。

聡真 もちを丸める係っす。

石田 つきたいんやないん？

聡真 全然。しんどいし。

石田 ・・助っ人がんばるわ。

と、階段を登って来る音が聞こえる。

外からはお湯をザバツと臼に入れる音が聞こえる。

桃子 もうちよっと待ってね。

石田 ああ。

桃子 すぐ温まるけ、道具。

石田 全然。

聡真 ひかりちゃんは？

桃子 買い出し。もうすぐやと思うけど。

聡真 そっか。

桃子はこたつに入り、とりあえず参考書に向き合う。

石田 毎年やりよん？

桃子 え？

石田 あ、毎年、もちつき。

桃子 そうなんよ。毎年。

石田 いいね。

桃子 んー、そうかね？

力彰が下の階をバタバタ走っている音が聞こえる。

石田 俺も、昔はようやりよったんやけど。

聡真 どこで？

石田 近所でやりよってさ、もちつき。

聡真 へえ。

桃子 参加せんくなったん？

石田 無くなったんよ。

桃子 ああ。

聡真 何で？

石田 やろうっち人がおらんくなったんやないやか？

桃子 ああ。

石田 準備も大変やし。

桃子 そうよね。

と、下の階で力彰の声が通り過ぎる。

力彰(声) あっち、あっち。

石田 あ、だけ、久々やけテンション上がったって。

桃子 頼もしいね。

石田 頼もしい？

桃子 え、うん。

石田 (聡真に)て。

聡真 頼もしいっす。

桃子 私の代役やけね。

石田 え？

桃子 ガツツリやってもらわんと。

石田 あれ？もちつき、せんのか？

桃子 え、うん。

と、外から女の子たちと力彰の声が聞こえる。

ひかり(外から) お、来とるやん。

力彰(外から) おう。何か多くねえ？

ひかり(外から) そうやね。

○聡真 帰って来たね。

○桃子 成美たちもやか？

○聡真 成美？  
○桃子 私の友達。

●成美（外から） よ。  
●力彰（外から） 何で今永がおるん。  
●成美（外から） 呼ばれたけ。  
●力彰（外から） もちつくん？  
●成美（外から） つかん。  
●力彰（外から） どういうことかちゃ。

桃子は窓から顔を出し、

桃子 おかえり。  
成美（外から） ただいまー。  
桃子 自転車、大丈夫やった？  
奏子（外から） うちがおるんっすよ。  
桃子 そうやね。  
成美（外から） 途中まで持って来てくれとって。

ひかりと優衣は玄関を入れて来た様で、下の階から声が聞こえる。

○ひかり（声） ただいまー。  
○優衣（声） ただいまー。  
○聡真 おかえりー。  
○ひかり（声） お、今年もサボリ？  
○聡真 待機中。  
○ひかり（声） もちつけ。  
○聡真 つけんちゃ。  
○優衣（声） でも取ってくれるけ。  
○ひかり（声） 取るっち言っても。

ひかりと優衣が下の階を通り過ぎて行く。

●桃子 ああ、だけ早かったんやね。  
●力彰（外から） 何で今永がおるん？  
●桃子 私が呼んだん。  
●力彰（外から） もちつかんっちよ。  
●桃子 一緒に勉強するん。上がり、寒かったやろ。

●成美（外から）　ん。

桃子は窓を閉める。

外では力彰と成美、奏子の声が聞こえる。奏子の紹介などをしている様である。

石田　だけ、もちつかんの？

桃子　え？

石田　勉強があるけ？

桃子　いや、来週模試やけさ。

石田　ああ。

桃子　もうバタバタ。

聡真　正月からなんよね？

桃子　そうちゃ、そんな日にせんでも。

石田　・・・そうやね。

桃子はこたつに入り、筆記具を手取る。

桃子　石田くんは就職？

石田　え？

桃子　同い年なんよね？

石田　そう、就職。

桃子　もう決まっとん？

石田　自動車整備工場に。

桃子　え、何か似合うね。

石田　そうかね。

桃子　似合うよね？

聡真　似合うと思う。

石田　親父の知り合いやけ、そんなやりたいとかは、あれやけど。

桃子　そうなんやん。

聡真　大学とかは？

石田　いや北高やし、頭が。

聡真　あ、そっか。

石田　そっかつち何か。

聡真　すんません。

石田　いや、そうなんやけど。

桃子　じゃあ、こっちにおるんやね。

石田　ん？

桃子　卒業した後も。



石田 そうやね。

桃子 リッキーも八百屋やし。

聡真 大学行けばいいのに。

桃子 そう決めたんやけ。

聡真 いつ潰れるか分からんよ。

桃子 それ、あんたが言わんの。

聡真 いや、マジで。

桃子 マジとか言わんの。

聡真 今時、八百屋一本じゃね。

桃子 えー、でも無くなったら寂しいやん。

聡真 でも買う人が減つとるし。

桃子 ああ。

聡真 桃ちゃんも東京やろ？

桃子 え？

聡真 みんな、おらんくなるけ、仕方ないんよ。

桃子 受かったらやけど・・・

石田 大学、東京なん？

桃子 だけ、受かったら。

と、下の階から成美と奏子の声が聞こえる。

奏子(声) ただいまです。

成美(声) お邪魔します。

桃子 あ、おかえり。

二人が階段を上がって来る音が聞こえる。

奏子(声) いや、マジ寒いっすね。

桃子 あー、勉強せな。受からんと。

桃子は参考書に向き合う。

※当日、雪が降っていなかったら

成美(声) 雪でも降るんやないん。

奏子(声) え、ホワイトクリスマスつか。

成美(声) 雪、面倒くさ。

奏子(声) また臭いっち言うつ。

※当日、雪が降っていたら

成美(声) 雪積もるんやないやか。  
奏子(声) いいっすね。ホワイトクリスマス。  
成美(声) 帰るの、面倒くさ。  
奏子(声) また臭いっつ言う。

成美と奏子が部屋に入って来る。

桃子 おかえり。

成美 あ、こんにちは。

聡真 こんにちは。

石田 (ほぼ同時に) こんにちは。

奏子 ・・こんにちは。

成美 ガツカリせんの。

奏子 するでしょ。

聡真 ガツカリ?

桃子 あ、友達の成美と、バスケット部の後輩の白木。

石田 ども。

桃子 リッキーの弟の聡真と、助っ人の石田くん。

石田 石田です。

奏子 助っ人っついわれたら、あれやけど。

成美 何をブツブツ言いよんよ。

奏子 だって。

と、下の階から声が聞こえる。

力彰(声) 石田ー。

石田 あ?

力彰(声) そろそろ手伝え。

石田 ん。

桃子 ほら、私の代役なんやけ。

石田が部屋を出ようとするが、立ち止まり、

石田 桃子ちゃん。

桃子 ・・え?はい。

石田 俺、一緒にしたかった。

桃子 え・・

石田 もちつき。

奏子 やらしいー。

石田 え？

奏子 あ、すいません。

石田 一緒にできるっち思いよったけ。

桃子 ああ。

石田 でも勉強があるんやろうけ、うん。

力彰(声) 石田ー。

石田 代役、がんばるけ。

石田が階段を降りて行く。

成美 知り合いやったん？

桃子 今日はじめて。

成美 へえ。

聡真 ごめんね。

桃子 え？

聡真 楽しみにしとったみたいやけ。何か。

桃子 いや・・そうなんや。

奏子が聡真の横に入り込みながら、こたつに入る。

奏子 何なん？桃子先輩のこといいなーみたいなの？

桃子 白木。

奏子 いいやないっすか。

成美 あんたも初対面やろ。

奏子 どうなん？

聡真 まあ、そんな感じですかね。

奏子 え、で、もちつきに来てお近づきに、みたいなの？

聡真 ですかね。

奏子 わー、邪(よこしま)。

成美 あんたが言うな。

奏子 うちはそんなんやないっすよ。

成美 さつきガツカリしとったやろ。

奏子 じゃあ、さつきの告白？

桃子 は？

奏子 あなたと一緒にもちつきたい。んー、イマイチやな。

桃子 違うちゃ。

奏子 どうするんっすか？

桃子 何が？

奏子 答えっすよ。あなたのもちをひっくり返します。

桃子 何、それ。

奏子 あなたの杵を受け止めます。いや、完全にシモやな。

成美が奏子にファブリーズを振りかける。

奏子 わ、何すか。臭いとか言っていないやないっすか。

成美 何か、芝居がくさい。

奏子 ・・おお。

成美 だけ、おおっち言わんで。

桃子 何の遊びなん。

成美 あんたは行かんでいいん？

奏子 え？

成美 助っ人は行ったよ？

奏子 ああ。

成美 邪魔せんのやろ？

桃子 邪魔？

奏子 ああ・・しゃーない。

奏子が下に降りて行く。

桃子 邪魔？

奏子 勉強の。

桃子 ああ。

○聡真 プロポーズのためにもちつくって、よくあるよね。

○桃子 え？

○聡真 昔話で。

○桃子 まだ、それ考えよったん。

○聡真 うん。

○成美 弟くんはもちつかんの？

○聡真 ああ、補欠なんで。

○成美 補欠。

○聡真 はい。

成美 じゃあ、いつかはレギュラーなんやん。

聡真 なんのやないっすかね？

下の階から声が聞こえる。

- ひかり（声） あの人があつて人？
- 奏子（声） そ。
- ひかり（声） 何か、もちつくか聞かれたんやけど、
- 優衣（声） うん。
- ひかり（声） どういうこと？
- 奏子（声） そういう人らしい。
- ひかり（声） よう分からんけど。

ひかりと優衣が二階の階段を上がって来る音が聞こえる。

ひかり 勉強。

桃子 しとります。

ひかり ウソ、ウソ。

桃子 どの小姑なん。

成美 しっかりしとるね。

ひかり 姉がこれですから。

桃子 うるせえ。

ひかり 勉強せんのなら、マジで手伝い。

桃子 いいやん。

ひかり ちよつとぐらいき、

桃子 私がおらんでも、人おるやろ。

ひかり ・・まあ、そうか。

桃子 うん。

ひかりが割烹着を手に取り、身に着けながら、

ひかり 姉ちゃんの代わりはいくらでもおるか。

桃子 そうやろ？私の代わりはおるやろ？

ひかり おるおる。

桃子 白木もおるし、石田くんもおるし。

下の階からはラジオの音が微かに聞こえる。

ひかりは割烹着を着ると、桃子の割烹着を嗅ぎ、

ひかり もう大丈夫やろ。

桃子 最初っから臭くないし。

ひかり （優衣に）はい。

優衣 (受け取り)・うん。  
ひかり 聡真もそろそろ。  
聡真 ほーい。  
優衣 桃ちゃん。  
桃子 ん？  
優衣 ホントにいいん？  
桃子 え、何で。いいよ。  
優衣 もちつかんの？  
桃子 石田くんみたいなこと言わんでよ。  
優衣 ごめん。  
桃子 謝らんでいいけど。  
ひかり つかんつち言いよんやけ。  
優衣 うん。

ひかりは優衣に割烹着を身に着けさせる。

ひかり やる人が着らんと。  
桃子 そうそう。  
ひかり やらん人に残しとつても。  
桃子 そういうこと。  
ひかり そういうこと。  
桃子 お、似合っとう、似合っとう。  
優衣 そうかね。  
桃子 あれやったら来年も使っいいいけ。  
優衣 いや。  
ひかり 受かってから言い。  
桃子 受かるちゃ。

桃子は筆記具を持ち、参考書に向き合う。

力彰が部屋に上がって来る。

力彰 (声) くっそ寒(さみ)い。  
成美 ああ。  
力彰 (雪以外の日) これ雪降るんやないん。(雪の日) これ雪積もるんやないん。  
ひかり (雪以外の日) 降るかもね。(雪の日) 積もるかもね。  
力彰 やっぱり？  
ひかり 東京は大雪なんて。  
桃子 え？

ひかり 大雪。

聡真 そうなん？

ひかり さっき、下のラジオで。ね？

優衣 うん。

ひかり そう言いよった。

優衣 何か電車も止まっとるっち。

桃子 そんなに？

力彰 大事やな。

ひかり 大事よ。

力彰 年末の忙しい時に。

優衣 そんなに積もらんしね、こっち。

ひかり いや、積もったら大変よ。

力彰 高台やしな、ここ。

ひかり そうよ、坂がつるつるになって、

桃子 小学生ん時あったよね、結構積もった日。リッキーとか、そこでさ、

全員 ……。

桃子 はいはい。

桃子は参考書に向かう。

聡真 こっちは全然なんにね。

力彰 あ？

聡真 大雪とか。

力彰 そうやな。

成美 寒いけど。

力彰 それは、まあ冬やし。

ひかり (雪以外の日) こっちも降るやか？ (雪の日) こっちもいっぱい降るやか？

力彰 どうやろ。

成美 降る時は降る。降らん時は降らん。

力彰 いや、当たり前やん。

成美 そ、当たり前。

優衣 そうですな。

成美 雪が(いっぱい)降ったら、白木が喜ぶだけ。

力彰 だけ、かは分からんけど。

成美 心配しても期待しても仕方ないんよ。

ひかり でも準備はしとかんと。

成美 準備？

ひかり 雪が降ったら大変やけ。

成美 それはそうやね。

外からは奏子と石田の音が聞こえ、  
下の階からはラジオの音が微かに聞こえる。

力彰 おら、聡真。

聡真 何？

力彰 やるぞちや。

聡真 するする。

力彰 ばあちゃん、しんどいんやけの。

成美 ん？

聡真 分かっとう。

力彰 お前がやっちゃらんと。

聡真 ほーい。

成美 やることあるん？

聡真 もち丸めるだけっす。

成美 ちゃんとレギュラーやん。

聡真 どうですかね。

聡真が下の階に降りて行く。

優衣 うちらもやろっか。

ひかり あ、うん。

優衣 じゃあ、お借りします。

桃子 どぞどぞ。

ひかり 先輩、お願いしますね。

成美 ああ。

ひかりと優衣が下の階に降りて行く。

奏子(声) もう行けるよ。

ひかり(声) ホント？

奏子(声) イッシーがそう言うけ。

石田(声) ばっちり。

●奏子(声) いや、イッシーが役立つけ。

●石田(声) いやいや。

●奏子(声) さすが助っ人。

●石田(声) かなちゃんもいいよ。



● ひかり(声) じゃあ、持って行く。  
● 奏子(声) よろしく。  
○ 力彰 うまくやりよるな。  
○ 成美 すごいわ白木。  
○ 力彰 今年も何とかなりそうやな。  
○ 成美 今年も？  
○ 力彰 ああ、うん。  
○ 成美 ・ ・ ・ おばあちゃん、調子が悪いん？  
○ 力彰 ん？  
○ 成美 さっき。  
桃子 ・ ・ ・  
力彰 ああ。ここのね。  
成美 割烹着の。  
力彰 割烹着？  
成美 調子が悪いん？  
力彰 ちよっとね。  
桃子 ちよっとやけど。  
成美 聞いとんかい。  
桃子 だけ聞こえるやろっちゃ。  
力彰 でも段々、のお？  
桃子 大丈夫ちゃ。  
力彰 いや、大丈夫なんやろうけど。  
桃子 大丈夫。  
力彰 こっちのじいさんが死んでから、  
成美 ああ。  
力彰 こう段々。  
桃子 もういいちゃ。  
成美 そういもんなんやね。  
力彰 いや、こっちのじいさん、マジですごかったけ。のお？  
桃子 分かんけど。  
力彰 商店街の会長しよって、  
成美 ふーん。  
力彰 この、もちつきも全部一人で仕切ってさ、  
成美 ああ。  
力彰 まあ口は悪いんやけど、  
成美 うん。  
力彰 その辺の人、ごっそりかき集めて。  
桃子 別にそんなんや、

力彰 まあ、かき集めるっち言うか、勝手に人が集まって来るみたいな。  
成美 へえ。

力彰 とにかくパワフルやったよね。

桃子 それは、まあ、そうやね。

力彰 だけ、去年大変やったんよ。

成美 去年。

力彰 じいさんがおらんやったけ。

成美 ああ。

力彰 おいちゃんも、何かのんびりしとるし。

桃子 ばあちゃん似なんよ。

力彰 だけ、俺と、のお？桃子で仕切って。

桃子 忘れた。

力彰 いや、忘れんやろ。

桃子 忘れた。

と、下の階でバタバタと走る音が聞こえる。

ひかり(声) あっつ、あっつ。

優衣(声) 大丈夫？

ひかり(声) 優衣は？大丈夫？

優衣(声) 大丈夫。

下の階からもち米を炊いた香りが立ち昇って来る。  
炊いたもち米の匂いが、部屋の中に充満する。

成美 いい匂い。

桃子 ・・うん。

力彰は窓を開けて、

力彰 大丈夫？

石田(外から) 誰に言いよんか。

力彰 頼りになるわ。

石田(外から) かなちゃんとやるけの。

奏子(外から) オッケー。

力彰 ちゃんとこねろよ。

と、下の階から声が聞こえる。

聡真(声) 桃ちゃん。

桃子 ん?どした?

聡真(声) のし板は?

桃子 いつもはどこやろ?

聡真(声) ないんよ。

桃子が立ち上がり、

成美 桃子。

桃子 分かんつち言っけ。

成美 いや、

桃子 一瞬、一瞬。

成美 私はいんやけど。

桃子 (聡真に) ばあちゃんが知っとなやないやか?

桃子が階段を降りて行く。

桃子(声) ばあちゃん。

力彰は窓を閉めて、

力彰 こうなんよ。

成美 え?

力彰 みんな桃子桃子なんよ。

成美 そうなんやね。

力彰 結局。

成美 おじいちゃんに似とるんやろうね。

力彰 え?

成美 桃子。

力彰 そっくりよ。

成美 分かる気がする。

力彰 ん?

成美 会ったことないけど。

力彰 そうやな。

外ではもちつきが始まったようで、威勢のいい声が聞こえる。  
ひかり、優衣の笑い声も聞こえている。

成美 (笑いながら) 騒がしい。

力彰 のお。

成美 ん？

力彰 今永はさ、何し来たん？

成美 え？

力彰 いや、そういう意味やなくて、だって初めてやろ？この家来るの。

成美 初めて。

力彰 学校で仲良いのは知っとるけど。

成美 うん。

力彰 プライベートでつるむ感じが。

成美 そうやね。

力彰 うん。

成美 ・・何でやと思う？

力彰 え、何それ。

成美 何で呼ばれたんと思う？

力彰 桃子に？

成美 そう。

力彰 俺が聞いたんやけど・・

成美 何でやと思う？

力彰 え、だけ、え、何やろ。・・あれやないん？勉強を。

成美 そうよね。

力彰 だって、全然もちつきには・・

成美 助っ人にはなれんよ。

力彰 よの？

成美 なれんつち言うか、ならんし。

力彰 まあ、そうやろうな。

下の階から声が聞こえる。

石田 (声) リッキー。

力彰 ん？どした？

石田 (声) ヘルプ、ヘルプ。

力彰 何かちゃ。

成美 いってらっしゃい。

力彰 ・・あれやったらさ。

成美 ん？

力彰 見るだけでも面白いと思うよ。

成美 ああ。

力彰 別につかんでもいいし。

成美 ありがとう。

力彰 ん。

力彰が階段を駆け降りて行く。

外では相変わらず、騒がしい声が聞こえている。

部屋の中では成美が一人、みかんをむいている。

力彰が合流したようで、一層大きくなった声が部屋の中に入って来る。

成美 (ポツリと) なるほど。

みかんを口に入れる。

と、階段を上がって来る音が聞こえ、桃子が入って来る。

桃子 あら、リッキーも行った？

成美 うん、今。

桃子 よし、やっと静かになった。

桃子がこたつに入る。

成美 (窓の方を見ながら) そう？

桃子 まあ、静かにはならんか。

成美 なりそうにないね。

桃子 こんな日やから。

成美 勉強にならんね。

桃子 でもやらんと。

桃子は筆記具を持ち、参考書に向き合う。

成美 楽しそうやね。

桃子 え？

成美 ん？

桃子 楽しそうっと思っくん？

成美 楽しそうっと思わんの？

桃子 私はあれやけど、成美も思っくん？

成美 私を何と思っくん。

桃子 いや、そういう意味やないんやけど。

成美 じゃあ、どういう意味なん。  
桃子 そういうのに興味がないうち思いよったけ。  
成美 ないよ。  
桃子 そうよね。  
成美 けど、あんな楽しそうにしとったら。  
桃子 うん。  
成美 あれが日常じゃない私でも、そう思う。  
桃子 うん。  
成美 そもそも、もちつきは日常じゃないけど。  
桃子 そうやね。  
成美 だけ呼んだんやろ？  
桃子 え？  
成美 私がおらんかったら、一人になるもんね。  
桃子 いや・・  
成美 白木やったら、すぐ行くやろうし、あっち。  
桃子 それはそうやね。  
成美 おるよ、ここに。  
桃子 ・・行きたい？  
成美 全然。  
桃子 そっか。  
成美 ・・行きたい？

下の階で声が聞こえる。

ひかり(声) 聡真ー。  
聡真(声) はいはい。  
ひかり(声) もうすぐ、行くよー。もち。  
聡真(声) いつでもー。  
桃子 一昨年まではさ、  
成美 ん？  
桃子 一昨年。じいちゃんがおったけ、ずっとくっついて回りよって、  
成美 うん。  
桃子 何か・・何やる。こっ、じいちゃん越しにもちつきを見よう感じで。  
成美 へえ。  
桃子 それが毎年の事で。  
成美 当たり前やったんやね。  
桃子 そう。けど去年はそうやなくて。  
成美 うん。

桃子 私たちがやらんとつち、何て言っつかね、最前線におる気がしとって。  
成美 もちつき最前線。

桃子 そんなで今年はさ、(窓の方を見ながら) ガラス越しで。  
成美 そうやね。

桃子 来年、私はどこにいるんでしょうか。

桃子は立ち上がり、ベッドの二階に駆け上がって行く。

桃子 あー、どこにいるんでしょうか？

成美 東京やる。

桃子 東京におるんかな。

成美 行きたいんやる？

桃子 何で東京行きたいんやる。

成美 そこ？

桃子 東京行ったら何があるん？

成美 さあ、どうやろうね。

桃子 何もないんかね。

成美 行ったことないし。こっちは何かあるんやないん？

桃子 あー、何があるっち言うんやる。

と、成美は桃子にファブリーズを振りかける。

桃子 ちよ、え？

成美 辛気臭い。

桃子 辛気臭い。

成美 何があるかは知らんけど、

桃子 うん。

成美 ずっとそこにはおれんのやけね。

桃子 ここ。

階段を上がって、ひかりが部屋に入って来る。

ひかり 何しよん？

桃子 ちよっと・休憩。

ひかり どんだけ休憩するんよ。(成美に) すいません。

成美 いや。

桃子 あんたは？

ひかり ん？

桃子 何しよん。

ベッドの下の階に置いてあった携帯電話を手にながら、

ひかり 休憩。

桃子 下の部屋でしたら？

ひかり 見つかるやん、誰かに。

桃子 サボリ。

ひかり 姉ちゃんに言われたくないけど。

桃子 私はサボってないちゃ。

ひかり 布団の上でよう言えるね。

成美 桃子。

桃子 ん？

成美 ちょっと下見て来る。

桃子 行くん？

成美 何か、見てみたくなった。お祭り騒ぎ。

桃子 どういうこと？

成美が階段を降りて行く。

外では相変わらず、もちつきをする声が聞こえている。

ひかり 見限られたね。

桃子 は？

ひかり 成美先輩にも。

桃子 別にそんなんやないし。

もちつきをする声が聞こえている。

桃子 順調？

ひかり ん？

桃子 もちつき。

ひかり 超順調。

桃子 そっか、そっか。

ひかり 助っ人2人が何か、意気投合しとって。

桃子 おもろ。

ひかり この後、クリスマスもやろうとか言いよって。

桃子 白木っほいわ。

ひかり 優衣も楽しそうやし。



桃子 そうか、そうか。  
ひかり ・ ・ 気になるん？  
桃子 なってないし。  
ひかり ふーん。

もちつきをする声が聞こえている。

桃子 ねえ。

ひかり ん？

桃子 こゝ、使っ？

ひかり こゝ？

桃子 私がおらんくなったら、ベッドの上。

ひかり ああ。

桃子 使ってもいいよ。

ひかり 使わん。

桃子 何で。

ひかり 毎日登るの面倒やし。

桃子 そう思いよったん？

ひかり 汗臭そうやし。

桃子 布団代えればいいやん。っーか臭くないし。

ひかり 別にここでもいいし。

桃子 ああ。

ひかり ベッドの下も悪くないんよ。

桃子 そうなんやん。

ひかり そうなんよ。

桃子 そうなんやん。

ひかりは割烹着を脱ぎ、桃子に投げつける。

ひかり あー、もう、いいけ、ちょっと、ついて来。

桃子 え？

ひかり どうせ、そうなんやけ。

桃子 いや。

ひかり 日頃の鬱憤晴らすのがもちつきなんやろ？

桃子 うん。

ひかり 一旦晴らしてき。

桃子 そうやね。

ひかり 早行かんと終わるよ。

桃子 ……これ、臭くない？

ひかり 臭くないちゃ。

桃子 冗談やん。

桃子は割烹着を身に着ける。

ひかり うちの匂いがするんやろ？知らんけど。

桃子 ね、全然分からん。

ひかり うちの匂いはうちらじゃ分からんの。

桃子 分かるようになるんやか？

ひかり は？

桃子 家出たら。

ひかり 知らんよ。

桃子 知らんよね。

ひかり そんなん、出てから考えり。

桃子 そうやね。

桃子はベッドの上から降りて来る。

ひかり ついたら勉強。

桃子 分かっとるちゃ。

ひかり いってどっしやい。

桃子 いってきます。

桃子は階段を降りて行く。

ひかりは、ベッドの下から桃子が階段を降りて行くのを眺めている。

外では桃子が合流したようで、もちつきの声がより一層賑やかになる。

ひかりは立ち上がり、窓を開け、その姿を眺めている。

しばらくすると、窓を閉め、ひかりも階段を降りて行く。

部屋には誰もいなくなり、外の声だけが部屋の中に響いている。

おわり